

令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 7 年 3 月 21 日

札幌市立 桑園小学校

1 今年度の重点目標

①家庭や地域とともにある学校づくり ②知・徳・体の調和のとれた育ち ③札幌らしい特色ある学校教育 ④子どもの発達への支援
⑤信頼される学校の創造 ⑥教科等の枠組みを越えた教育 ⑦働き方改革

2 本年度の経営方針

基本理念「共に生きる力を育む学校文化の創造」
目指す学校の姿(学校像)「“ひびきあい”のあふれる学校」

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	重点項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
目指す子ども像	自立性 協同性	学年研修を通して、学年の子どものための課題を捉え、教材研究や子ども理解を深めながら、指導の在り方の共通理解を図り、学年みんなで子どもを育てていたか。	A	“ひびきあい”のあふれる学校を目指し、「自立性」と「協同性」をキーワードにして教育活動を行ってきた。担任5人(4人)が学級の枠を越え、学年全体の子どもたちを見守って学年全体を育ててきた。次年度は、更に目指す子ども像の具体を共有しながら教育活動を進めていく。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		学年全体で子どもを育てていることが感じ取られた。学習発表会では一人一人のよいところや得意なことが生かされ、どの子ども生き生きと発表に臨んでいた。普段の様子をみる機会があるとよい。				
人間尊重の教育	道徳教育 命を大切に する指導	道徳教育や特別な教科道徳、命を大切に する指導等を通して、お互いを大切に する心の育成の充実が図られたか。	A	今年度は、学年で担任を入れ替えて道徳の授業をし たり、命を大切にする指導を行ったりしながら一人一人 が自他の生命を尊び、互いにかげがえのない人間とし ての尊厳や個性、多様性を認めるような指導をしてき た。今後も、自治的な活動も生かしながら「自分が大 切にされている」と実感できるように丁寧な指導が必要 である。	A	B
「学び力」の育成	課題探究的な学 習 一人一台端末 家庭学習	子ども一人一人の「主体性」を大事にする ことや「つながり」を生むことで、充 実感や達成感をもつことができる課題探 究的な授業ができていたか。	A	年間を通して、全学級が授業を公開する場を設定し、 教材の工夫や教師の関わりについて話し合い、授業改 善を行った。今後も、自ら学びを進める子を目指し、 授業改善をしていく。	A	A
「豊かな心」の育成	あいさつ 廊下歩行 清掃 いじめ防止	学級活動や児童会活動が連携して、子 どもも発信による取組を中心として、規範意 識の定着を図るとともに、集団の一員と して、よりよい生活や望ましい人間関係 を築こうとする態度を養っていたか。	A	進んで挨拶することや廊下歩行については経年の課題 である。委員会活動の取組で、「あいさつ月間」を 行ったときは元気に挨拶する子が多かった。今後も、 子どもたちの自治的な活動を生かして取り組んでいけ るように改善していく。	A	A
「健やかな体」の育成	体育科の授業 運動機会の創出 健康指導	体育科において、生涯を通じて運動に親 しむための基礎を培うとともに、子 どもが主体的に運動に取り組もうとする態度 を養っていたか。	A	健やかな体育部を中心に指導力向上の研修を行い、 体育の実践に生かした。また「マット月間」や「跳び 箱月間」等、休み時間に器械運動に取り組む場を設定 したことも、成果として挙げられる。次年度も、子 どもたちが体を動かす機会が増えるように、環境を工夫 していく。	A	A
一貫性・連続性のある教育 (小中一貫した教育)	授業参観 研究授業 さっぽろっ子サ ミット	陵北中学校区のつながりを軸に、小中連 携のグランドデザインの具体化を進め、 向陵中学校、中央中学校との連携にも反 映できるようにしていたか。	B	今年度は、春の研究集会で陵北中学校や日新小学校、 二十四軒小学校と共に、授業研究に取り組んだり日常 実践交流をしたりすることができた。また、生徒会と 児童会の子どもたちがオンラインで交流する機会もあ り、パートナー校のつながりを感じることができた。 次年度も継続して行いたい。	A	B
学校関係者評価委員会による意見		<ul style="list-style-type: none"> 道徳教育を大切にしていることを評価する。図書ボランティアとして来校した際に、相手を思う気持ちが育っていることが伝わり、とてもうれしく感じた。 挨拶習慣は大事である。父兄や学校を訪れる方も積極的に挨拶されるといい。 アンケート結果を見ると、「読書」や「家庭学習」等の設問で教職員や児童と保護者の結果にズレがある。もう少し学校から取組に関する発信があった方がよい。また、地域と接点をもてるようになるとよい。 				
学校独自 設定する分野	「いそむ時間」での読書活動、開放図書館との連携、保護者・地域ボランティアによる読み聞かせ等を通して、読書に親しみ、生涯にわたる学びの基盤を養っていたか。		B	朝のいそむ時間で読書活動を行った。また月に一回、ボランティアさんによる読み聞かせは、子どもたちにとっても楽しみな活動であり、今後も継続していきたい。子どもたちが、更に本を好きになるように働きかけていきたい。	B	B
	子どもや保護者の困りや悩みについて、適切に理解し対応するために、校内学びの支援委員会やケース会議を随時開催するとともに、相談支援パートナーや巡回指導員、スクールカウンセラー・学びのサポーター等の関係機関を効果的に活用して助言をもらい、指導に生かしていたか。		A	子どもの困りや悩みについては、必ず職員間で情報を共有し、できるだけ迅速に対応できるように取り組んだ。また、様々な関係機関とも連携し、できる限り指導に生かすようにした。次年度も、子ども一人一人に寄り添い、安心して学校生活を送ることができるよう関わっていく。	A	A
	登下校時における児童の安全確保について、家庭、地域ボランティア、スクールガードリーダー、関係機関等との連携を一層強化し、サポート体制を整備していたか。		A	関係機関と連携を図って、交通安全教室やSNSによるトラブルを防ぐ出前授業等、子どもの安全を守る取組を行った。次年度も継続して行っていく。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		<ul style="list-style-type: none"> 開放図書館や朝の読み聞かせ活動が賑々と受け継がれていることを、学校側がとても評価し活動を応援していることに感じている。今後も、学校と開放図書館が一体となって子どもたちの読書環境の創造を担ってもらいたい。 アンケート結果を見ると、「読書」や「家庭学習」等の設問で教職員や児童と保護者の結果にズレがある。もう少し学校から取組に関する発信があった方がよい。また、地域と接点をもてるようになるとよい。 地域とのかかわりも大切。よい環境が子どもを育てる。 今後も交通事故が無いように交通安全の取組を強化してほしい。 				